

会議記録

| | |
|------|---|
| 会議名 | 令和5年度 第1回 杉並区文化・芸術振興審議会 |
| 日時 | 令和5年7月13日(木) 午後6時00分～午後7時27分 |
| 場所 | 杉並区役所 東棟6階 教育委員会室 |
| 出席者 | 〔委員〕 曾田修司(会長)、後藤朋俊、シライケイタ、染谷真之介、服部洋、朝枝晴美、谷原博子、日沼禎子、 〔区〕 区民生活部長兼文化・スポーツ担当部長(齊藤)、文化・交流課長(坪川) 〔事務局〕 文化・交流課 |
| 欠席者 | 小林真理、富澤武幸、米屋尚子 |
| 配布資料 | 資料1 令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定について 資料2 令和5年度文化芸術活動助成金の審査について 資料3 杉並芸術会館芸術監督の選任について 資料4 令和5年度 文化・芸術振興審議会スケジュール 参考資料 杉並区文化・芸術分野に関する計画について |
| 会議次第 | 〔議事〕 1 開会 2 審議会委員の紹介 3 議題 (1) 令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定について (2) 令和5年度文化芸術活動助成金の審査について (3) 杉並芸術会館芸術監督の選任について (4) 令和5年度 審議会スケジュールについて 4 閉会 |
| 主な発言 | 別紙のとおり |

| 発言者 | 発言内容 |
|-------------|--|
| | <p style="text-align: center;">－ 開会 － （午後6時）</p> |
| | <p>1 開会</p> |
| 文化・交流課長 | <p>定刻になりましたので、令和5年度第1回杉並区文化・芸術振興審議会を開催いたします。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私は、この4月から文化・交流課長で参りました坪川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>最初に、区民生活部長の齊藤部長からご挨拶申し上げます。</p> |
| 文化・スポーツ担当部長 | <p>皆さん、こんばんは。4月から区民生活部長と文化・スポーツ担当部長を兼務させていただいております齊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>日頃から杉並区の文化・芸術振興のためにご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。5月にコロナウィルスも5類感染症になりまして、これからは文化・芸術も通常どおりに、本当に一日も早く気兼ねなく、様々な文化や芸術に触れられるようになってほしいと思っております。</p> <p>審議会の皆様方には、当区におけます文化・芸術活動の支援、また、文化・芸術がもたらします創造性や多様性、また、区民生活の豊かさを享受することができる地域社会づくりを推進するために、引き続きお力添えを頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| | <p>2 審議会委員の紹介</p> |
| 文化・交流課長 | <p>また、皆さんご存じのとおり、佐藤信委員が杉並芸術会館の監督を6月30日でご退任されたことに伴いまして、後任の芸術監督であるシライケイタさんに今回の審議会から委員として就任していただくことになりました。</p> <p>今年度最初の審議会でもあり、新任委員も加わったということもございます。私ども事務局の体制も変わりましたので、委員の皆様にも改めて自己紹介をお願いできればと存じます。</p> <p>なお、本日は小林委員と米屋委員と富澤委員がご欠席です。名簿をお配りしてございますので、曾田会長から名簿順に自己紹介をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。</p> |
| 曾田会長 | <p>皆さん、こんにちは。曾田と申します。跡見学園女子大学でアートマネジメントを教えております。</p> <p>この文化・芸術振興審議会はそれなりに長く務めさせていただいておりました。杉並区の文化・芸術活動は非常に多彩で、いつも勉強になるのですけれども、特に座・高円寺を中心といたしまして、地域の皆さんとアートをつなぐということがほかの区にない特色ではないかと思っております。これも審議会の皆様方のご意見やご議論が積み重なったことだといつも感じておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> |

| | |
|--------------|---|
| <p>後藤副会長</p> | <p>後藤でございます。日本フィルハーモニー交響楽団の常務理事をしております。</p> <p>私は30年以上日本フィルでピオラをしております、団を代表しまして、杉並区の皆様のご協力、ご理解の下、演奏活動をさせていただいていることに感謝申し上げます。</p> <p>オーケストラの活動は様々ですけれども、我々は杉並区の地域の皆さんと一緒に、音楽を通して、もちろん文化を広げていくためにもそうですし、コミュニティをつくっていったりですとか、様々な問題と一緒に取り組んでいきたい。</p> <p>その中で、今、会長もおっしゃいましたけれども、本当に杉並区はいろいろな活動をなさっている方がいて、それぞれが意義を持って活動していることをいつも痛感しております。我々も学ばないといけないことがあるなど思っているのです、そういう皆さんをぜひこれからも一緒に支えながら、より文化が広まっていくように頑張りたいと思います。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>朝枝委員</p> | <p>NPO 法人サービスフロンティアの朝枝と申します。</p> <p>私は、先生方と違って、ふだん文化・芸術にほど遠いところにいるのですけれども、唯一続けているのが書道でして、今回、ギャラリーを借りて8月にまたできることを、せめてものここにいる言い訳とさせていただきたいと思っています。</p> <p>すぎなみ協働プラザに勤めておまして、日頃からいろいろな団体さんとお会いする機会があります。その中で、今、障害者の方ご自身がアートをやりたい、どうにかできないかみたいなご相談もあつたりしております。今ある活動のほかにそういう新たなきっかけが、皆さんのお力をお借りしながら、あるいは知見を広げながらできたらいいなと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>シライ委員</p> | <p>このたび新しく座・高円寺の芸術監督に就任いたしましたシライケイタと申します。</p> <p>先代の佐藤信先輩が演劇界においても本当に偉大な先輩なので、とてもプレッシャーが大きいですが、憧れというのもおこがましいような先輩でしたので、本当に荷が重いなという感じですが、選んでいただいた皆様のご期待に添えるように、そして、杉並区民のために、より豊かな文化・芸術の土壌を耕していけるように尽力いたしますので、どうぞこれからよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>染谷委員</p> | <p>私は、杉並公会堂の館長をやっております染谷と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私も、館長に就任しまして今1年というところではございますが、改めてこの1年間、館の状況を見ますと、昨年よりは文化・芸術活動が再開されて、各事業の公演なども見てみますと、人の動きも多くなってきていることを感じております。改めてこの1年間、私も文化・芸術振興審議会の</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>委員として務めさせていただく中で、芸術振興に寄与できればと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> |
| 谷原委員 | <p>学校・地域コーディネーターをしております谷原と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>小学校を担当しているのですが、ようやく子どもたちがほぼほぼマスクを外して登校するようになりました。音楽室からは楽器、吹奏楽で吹くものであったり、歌うことが制限なくできるようになったなどというのをとても実感しています。演劇の面でも声を出すということをやっていただけに、今年はどんなふうにその部分を楽しみながら子どもたちがやれるように持っていけるかなと思っています。</p> <p>毎年、子どもたちは座・高円寺の芸術鑑賞でいろいろな体験をさせていただいておりますので、声を出していなかった子どもたちの面倒をぜひ見ていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本業のほうではアナウンサーをしておりますので、座・高円寺でもMC等で大変お世話になりますが、よろしく願いいたします。</p> |
| 服部委員 | <p>杉並区文化団体連合会の会長を務めております服部洋と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>杉並区文化団体連合会は、杉並区社会教育センターのご指導の下、毎年9月、10月にわたりまして、セッション杉並の大ホール、展示室を利用して、杉並区総合文化祭を開催しております。連合会の団体の数は25団体です。現在、傘下の会員数は4,674名になります。現在、私たちの拠点であるセッションは2年間にわたる全面改修工事中でございまして、やっと8月1日に開館する予定でございます。本年は杉並区総合文化祭も、戦後から始めて記念すべきちょうど第70回を迎えますので、こけら落としを兼ねて、70周年記念総合文化祭として9月28日から10月24日まで、会期27日間にわたり開催いたします。どうぞ皆様、ご来館をお待ちしております。よろしく願いいたします。</p> |
| 日沼委員 | <p>皆さん、改めましてこんばんは。女子美術大学の日沼と申します。</p> <p>女子美術大学は学部が杉並から相模原に移転後、新設した学部が13年前(2010年)に杉並に戻り、杉並の学生数も大分増え、活発に今活動しているところです。</p> <p>特に私が指導しているアート・デザイン表現学科というのは、杉並区をフィールドとして様々な社会課題をアートとデザインで解決していくようなプロジェクト、プロデュース等の授業も進めてまいりました。</p> <p>このコロナ禍の3年間は、そういった活動もほぼオンラインで行い、杉並区との交流も非常に制限されたところでしたので、ようやく今年になって学生たちもフィールドワークができるようになって参りました。改めて杉並区に女子美があつてよかったと思っただけのような、交流、相互のプロジェクトをぜひ進めていければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p> |

| | |
|---------|---|
| 文化・交流課長 | <p>皆さん、ありがとうございました。</p> <p>それでは、次に配付資料の確認ですけれども、次第のとおり、資料1から資料4まで、右上にそれぞれ1、2、3、4と資料番号が振ってございます。それと、参考資料もお配りしてございますので、資料に不足等がございましたらお申し出いただければと思います。よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ここからの進行は曾田会長にお願いいたします。</p> |
| 曾田会長 | <p>それでは、皆様、よろしくお願ひいたします。</p> <p>表紙に「令和5年度第1回杉並区文化・芸術振興審議会次第」とございまして、議題が3番のところから4つ掲げてありまして、順番にまいりたいと思います。</p> <p>その前に、文化・芸術振興審議会条例第5条第4項に基づき、この審議会は公開となっております。傍聴人はいらっしゃらないということですね。</p> |
| 文化・交流課長 | はい。 |
| | <p>3 議題</p> <p>(1) 令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定について(資料1)</p> |
| 曾田会長 | <p>では、そのまま3番の議題に移らせていただきます。</p> <p>議題(1)「令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定について」ということですが、事務局から説明をお願いいたします。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>では、私から、資料1を御覧いただきたいと思ひます。資料1「令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定」について記載してございます。</p> <p>初めに、令和4年度の報告となります。</p> <p>まず、一番上の四角の中ですけれども、最初は座・高円寺及び杉並公会堂での文化・芸術の提供についてです。</p> <p>表の上の段は座・高円寺となっております、事業数は446事業実施いたしまして、来場者の方は17万7,212人お越しいただいております。ちなみに、括弧の中はそれぞれ前年度の数字となっておりますので、併せて御覧ください。</p> <p>その下は杉並公会堂でございます。33事業実施いたしまして、24万244人の方にお越しいただいております。前年度と比べますと、大分回復してきたなということが数字でも見て取れるところです。</p> <p>その下は日本フィルハーモニー交響楽団友好提携事業の実施状況を表にしてございます。</p> <p>上からですが、まず、公会堂の大ホールでは日本フィル杉並公会堂シリーズとして4回実施いたしまして、右側に参加人数が載っておりますけれども、4回で2,711人の方にお越しいただいております。</p> |

また、公開リハーサルや、小中学校に対しての出張音楽教室、ゆうゆう館という高齢者の施設と区立保育園などへ出張コンサートも行っております。

それ以外に、公募出張コンサートといたしまして、デイサービスや、グループホームなど、民間の施設へ出張していただいて、コンサートを開いております。

下に参りまして、区役所のロビーコンサートを定例的に行っております。毎回区役所ですと、いつもこの近隣の方しかお越しいただけないということもございますので、その下に載っておりますコミュニティふらっと永福という地域のコミュニティ施設にも、令和4年度は出張してコンサートを実施しております。

最後はエデュケーション・フェスティバルということで、公会堂大ホールで行っております。

下に写真がございますが、左側がコミュニティふらっと永福の様子、右側がグループホームでのコンサートの様子となっております。

その下は情報紙「コミュかる」の発行についての報告となっております。

毎年4回情報紙を作成しております、4年度は区制施行90周年の年でしたので、一面にはその記念事業に関する方を特集として載せております。

6月は、阿波おどり演劇を座・高円寺で行ったのですけれども、そのときの脚本・演出家の池亀さんを特集いたしました。

9月にはやはり90周年の記念ということで、「内田秀五郎一代記」という浪曲を作っていた、玉川太福さんを特集しております。

12月には90周年の記念曲として「鼓吹の桜」を作曲された福島さんを特集しております。

3月につきましては、文化芸術活動助成金の承認団体であります移動美術館を展開された八重田さん、佐々木さんを特集いたしました。

裏へ参りまして、「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」という取組を行っております。

この表を御覧ください。まずは「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」、大きいところと言いますと文化芸術の展示「BATA ART EXHIBITION」と呼んでおりますけれども、そちらも実施しております。最後「アート・ファン・ミーティング」を行っております。

上から少しご説明しますが、スギナミ・ウェブ・ミュージアムというのはウェブ上の仮想美術館となっております、まず、企画展として「マイなみすけ展」を昨年度は展示しております。「なみすけ」というのは区の公式アニメキャラクターなのですが、それを題材とした展示を行いました。

もう1つ、企画展として「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」。阿佐ヶ谷住宅というのは区役所の南側にありました公団の住宅だったのですけれども、その記憶展を行いました。こちらにつきましては6月30日までとなっている

のですが、好評につきまして現在も展示をしております。

四角の一番下のところに「その他」としまして、「杉並の写真家10人展」や、真造圭伍さんの「ひらやすみ」という阿佐谷を主題にした漫画があるのですが、その原画展をウェブ・ミュージアムで展示しました。

その下が「文化芸術の展示」ということで、「BATA ART EXHIBITION」と題しております。先ほど、ウェブ・ミュージアムの話をしたけれども、仮想美術館ではなく、実際にリアル展示をするということで、「マイなみすけ展」と「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」については、区役所の2階の区民ギャラリーで実物の展示も行いました。それと併せて「BATA ART EXHIBITION」を開催して、「ミニ枯山水づくり」「風鈴絵付け」「扇子絵付け」などの和文化ワークショップを実施いたしました。

この「BATA ART」というのは阿佐谷のアートということで、「道端」ですとか、阿佐谷にあります「川端通り」、あとは阿佐谷で「七夕祭り」も行いますので、その「バタ」をとって「BATA ART」と名付けております。

その下もBATA ARTの話ですが、今度は場所を変えて阿佐谷地域区民センターで行ったバタアートなのですが、このときは阿佐谷ジャズストリートの会場である阿佐谷地域区民センターのけやき公園においてスタードームを点灯して展示をしました。

また、併せて「竹のカスタネットづくり」や、「マスクで仮装しよう」というワークショップを実施したのですが、平日の昼間ということもございまして、残念ながら参加者数は少ない結果となりました。

次に、「アート・ファン・ミーティング」という事業もございます。これは、文化・芸術に関心のある人が自由に参加し情報交換を行う会議を行っておりまして、4年度については全部で8回実施をいたしました。合計で56名の方に参加していただいております。

3ページに参ります。4年度については「古典の日関連事業」といたしまして、12月4日に座・高円寺で、古典の日関連イベントを実施いたしました。

「見てみよう！」という鑑賞のものと「やってみよう！」という体験のものと2つに分かれまして実施をしております。

「見てみよう！」では、先ほどの90周年の話でもありましたけれども、浪曲師の玉川太福さん、玉川みね子さんによる公演を行いました。また、参加者の方々による浪曲体験も行いました。

その下「やってみよう！」ですが、殺陣の体験ですとか、三線体験、お手玉や折り紙など昔遊びの体験も行っております。下に写真がございまして、浪曲の様子ですとか、殺陣体験のときの様子を写真で載せております。

次に、3ページの一番下になりますけれども、「文化・芸術活動の支援」でございます。文化芸術活動助成を行っておりますが、4年度につきまし

ては一番下に記載がございますとおり、50件に対して助成を行っております。2期に分けて、合計50件助成を行いました。

4ページ目ですが、「その他」としまして、区民ギャラリーの運営でございます。区民ギャラリーというのは、区役所の2階にギャラリーを設置してございまして、ピクチャーレールやスポットライトを整備しまして、区民が利用できる作品展示スペースとして運営してございます。4年度については、区民利用17件、行政利用32件の展示を行いました。

その中で、私ども文化・交流課は、1月23日から2月4日の間、企画展として阿佐谷を題材にした漫画・真造圭伍さんの「ひらやすみ」の原画展を、区民ギャラリーにおいて開催し、先ほどお話ししましたとおりウェブ・ミュージアムでも連動して展示を行いました。

企画展の内容につきましては、作者が手書きで描いた原画55点を展示し、また、作中の印象的なシーンをパネルにして展示をいたしました。また、お越しいただいた方にはアンケートにご協力いただきまして、街歩きマップを贈呈したのですが、その街歩きマップというのは、作中に登場する区内の各所が掲載されているものでございます。下の右側にその原画を展示したときの様子がございますが、大変多くの方に御覧いただいたところです。

5ページへ参りまして、5年度の主な文化・芸術振興事業を載せてございます。

初めに、芸術会館（座・高円寺）と杉並公会堂での文化芸術の提供です。

まず、芸術会館につきましては、公演32プログラム、そのほかワークショップ等を実施いたします。今年度も「世界をみよう！」ですとか、「劇場へいこう！」を継続して実施してまいります。

続いて、杉並公会堂ですが、自主及び共催事業として25公演を実施いたします。

公会堂は令和6年の1月から8月まで大規模修繕のため休館を予定してございます。舞台設備の入れ替えを行うということで、若干、5年度の公演数に影響がございました。

その下は日本フィルハーモニー交響楽団友好提携事業の実施でございます。区立小中学校への出張音楽教室、区立施設及び民間施設の高齢者施設等へ出張コンサート、こちらについては前年度と同程度実施いたします。区役所ロビーコンサートは、先ほども申しましたけれども、出張版といたしまして久我山会館と、今年度についてはコミュニティふらっと成田で各1回実施する予定です。また、公開リハーサル、日本フィル杉並公会堂シリーズ、こちらについての回数は前年度と同数となっています。既に3公演については完売という報告も受けております。

併せてその下「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」の運営・発信を引き続き行いまして、常設展としましては、先ほどの「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」は引き続き、常設展として行います。「トウキョウ・スギナミ・アートチ

ズ」ですとか、「杉並の芸術家展」、こちらについては既に始まっているのですけれども、杉並にゆかりのある芸術家、画家の中川一政さん、佐野ぬいさん、田中青坪さんの作品を既に展示してございます。

企画展といたしまして、5年の10月からになりますけれども、将来クリエーターを目指す小学校5年生から24歳までの公募作品を展示してまいります。現在、チラシを作って、皆さんにご応募いただいているところでございます。

区民展としては、瀬谷ゆみこさんの「9:16 in 2.5 km radius」、これも6月からですので既に展示しているのですが、スマートフォンと虫眼鏡で撮影した身近な植物の画像を展示してございます。

最後の6ページ目に参りまして、情報紙の「コミュかる」です。5年度についても年4回発行してまいります。既に6月号については発行しておりまして、昨年の高円寺阿波おどり演劇「高円寺が踊る」に出演された俳優の中島多朗さんを取り上げた号になっております。

今後の予定としましては、9月号は日本フィルの次期首席指揮者のカーチン・ウォンさんを1面として取り上げる予定です。また、12月号はシライケイタさんを予定してございます。3月号については、文化芸術活動助成金の承認団体をテーマにと考えてございます。

次に、文化・芸術活動の支援です。

これについては区の計画事業となつてございまして、文化・芸術振興審議会の運営というのは本日のこの審議会のことですが、年3回審議していただくこととなります。

また、先ほどから何回も出ております文化芸術活動の助成、経費の一部助成ですが、こちらについても引き続き行ってまいります。

令和5年度につきましては4月1日から5月31日まで募集を行いまして、73件の申請がございました。これについてはまた後ほどご説明いたします。

(3)で、その他の事業ですけれども、「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」として、「アート・ファン・ミーティング」「BATA ART EXHIBITION」「まちなかギャラリーの発掘」を行ってまいります。

5年度につきましても、「古典の日」の関連事業といたしまして、古典に親しむ事業として今年度は12月3日に落語公演ですとか、ふろしきワークショップ、けん玉級位認定会を行います。

最後は、区民ギャラリーの運営です。先ほど言いましたように、区役所の2階に区民ギャラリーを設けておりまして、そこで区民への貸出しも行っているのですが、引き続き運営をしてまいります。

こちらについて報告は以上でございます。

曾田会長

ありがとうございました。

ご報告の前に傍聴人はいらっしゃらないと申し上げたのですが、ご報告を頂いている間にお一方いらっしゃいましたので、ご報告いたします。

| | |
|-------|--|
| | <p>ただいま昨年度の実績の報告と今年度進行中のものの内容の紹介を頂いたわけですが、毎年杉並区の文化・芸術プログラムとして行われているもので、継続的に行われている事業が多いと拝察しますので、かなりおなじみのプログラムが並んでいるということですがけれども、それぞれの委員の方から何かお気づきになったところがあればご発言いただいて、今後の改善といえますか、ますます盛んになるようにということでお話を頂ければと思います。</p> <p>何か印象に残ったプログラムがあればご紹介いただければと思いますけれども、感想ということでよろしいかと思えます。何か感想を頂きましたところで、皆さんにご議論いただくことがあればお願いしたいと思っています。</p> <p>名簿の順番でお願いできればと思います。順にお名前をお呼びしますので、何でも結構ですが、一言ずつ感想を頂ければと思います。</p> <p>副会長の後藤さんからお願いできますでしょうか。</p> |
| 後藤副会長 | <p>ここにありますように、日本フィルはいろいろな活動をさせていただいておまして、本当にありがとうございます。</p> <p>日本フィルとしては、公会堂さんとも一緒させていただいている演奏会がもちろん主ではあるのですがけれども、子どもたちのリハーサルですとか、出張コンサートですとか、こういう我々のほうから行く活動というのは非常に大事なかなと思っているのですね。演奏会場にいらっしゃれる方はこれだけ回数があっても限りがあるというか、何かのきっかけをつくっていくことも1つの活動であるといつも感じていますので、そういうことを必要とされている方に我々のほうから行くことは必要なかと思っています。</p> <p>こうやって見ていると、継続していろいろな事業をするということは非常に大事なことかなと。いろいろ方向性を変えるのも1つですがけれども、1つの事業を長い間しっかりと継続していくのは非常に難しいことかなと思っていますので、我々の活動も含めて、こういう種のを継続していく努力をしていただいて、区の皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。それに応えられるように、我々もしっかりと頑張っていきたいなと思っています。</p> |
| 曾田会長 | <p>ちょっとお聞きしたいのですが、公開リハーサルはかなり人数が多くお入りですね。</p> |
| 後藤副会長 | <p>そうです。</p> <p>これは賛否両論あるかなとは思いますが、ご支援を頂いていて、入場料はお取りしていないこともあるかとは思いますが、それだけ関心を持っていらっしゃる方が多いというのは非常にいいことかなと思っています。ただ反面、変な話ですがけれども、無料というのがあまり根づいてしまうと、コンサートであろうと、こういう催し物であろうと、逆の方向に行く可能性もある。</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>というのは、我々は被災地に音楽を届ける活動でオーケストラ単位で行くのですけれども、被災地のどの会館も無料でないと人が集まらない。お金を取ってしまうと人が集まらないというのが、今どの会館も共通して非常に問題ということがあるのですね。確かに無料にこしたことはないし、それだけ自治体なり何なりが完全にバックアップできればいいですけれども、いいものを得るためにはある程度のを払わないといけないという、文化の在り方に1つ疑問を投げかける場面に接したものですから。もちろん公開リハーサルは今のままでいいとは思いますが。</p> |
| 曾田会長 | <p>関連で、エデュケーション・フェスティバルというのはどういう中身なのでしょうか。</p> |
| 後藤副会長 | <p>エデュケーション・フェスティバルはいつも3月にやっております、これは杉並公会堂さんとの協力で、杉並公会堂を1日ディズニーランドのようにしようと。コロナ前はゼロ歳児から入れるようになって、演奏会だけではなくて、大声コンテストですとか、楽器体験ですとか、公会堂を探検するだとか、そういうことで1日、朝から夕方まで行いました。来年の3月は公会堂が休館のため使えないものですから、今年度は12月に行います。</p> |
| 曾田会長 | <p>それが楽しい体験として残って、次につながるということですね。これもすごく人数が多くいらっしゃると思いますね。これは大ホールを使うからでしょうか。</p> |
| 後藤副会長 | <p>大ホールを使うからそうでしょうし、子どもたちにするといろいろな体験ができる。特に楽器体験ですとか、親子で楽しめるということもあると思うのですね。</p> |
| 曾田会長 | <p>中身が分かって、大変ありがたかったです。 続きまして名簿順ということで、朝枝さん、お願いいたします。</p> |
| 朝枝委員 | <p>今お話を伺っていて、バックヤードツアーは教育委員会の所管であるセッション杉並でやったときも楽しかったので、きっといろいろな方にたのしんでいただいているんだろうなとお伺いしていました。</p> <p>感想としましては、日フィルさんは私の仕事であるすぎなみ協働プラザで、協働提案事業ということで吹奏楽の部活動の事業を行っていただいています。いろいろなところで活動をされているのだということを改めて思いました。</p> <p>それから、ウェブ・ミュージアムについては、私もですけれども、職場でも結構おもしろく拝見をしています。</p> <p>飛び飛びになりますが、さっきの「UNDER 24」の募集ですけれども、「24だと私たちできないね」と言いながら、おもしろい猿のようなキャラクターが、「あれは何だろうな」と言いながら、結構目についているのでいろいろな方の目にとまっているのではないかなと感じています。</p> <p>あと、先ほど申し上げましたけれども、区民ギャラリーについては私も</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>お世話になっているので、ああいう場があつて、ふだん何もしていないのですけれども、そういうところで発表ができるのはとてもうれしいことだろうなと思っています。</p> <p>それから、「ひらやすみ」の展示ですけれども、今、阿佐谷地域区民センターでも「ひらやすみ」の展示をされていて、多分一部で、このような形ではないかと思うのですけれども、ここにある等身大のお人形さんも飾られていて、興味のある方には目を引くでしょうし、文化・芸術にふだん関わりがなくても、区民センターなどを利用する方たちにとっては1つのいい機会になっているのではないかなと思っています。</p> <p>日フィルさんの共同提案に関して、中学生の部活に関することもそうですけれども、ここの芸術と言われる分野だけではなくて、いろいろなところに派生効果があるのではないかなと思っています。ただ、文化の日を担っていた一NPOさんが高齢化ということで今年解散してしまったりということもありましたので、またそういう担い手をどういう形でつくっていくのかということは1つ気になっているところです。以上です。</p> |
| 曾田会長 | <p>いろいろなことにコメントを頂きまして、ありがとうございました。</p> <p>ほかの委員の方々も触発されて感想、コメントがあれば、ぜひどんどんお願いいたします。</p> <p>それでは、シライさん。</p> |
| シライ委員 | <p>初めてこういうふうにとまとった杉並区の文化・芸術に関する資料を拝見いたしました。こんないろいろなやられているのだと。文化というのはまだまだ日本においては本当に発展途上な面があると思っています、つまり、いつでもそこにあるとなかなか思えない。文化があるために闘っている人たちがいる。もっともっと当たり前前にそこにある、作りたい人が作りたいときに作りたいものを作る、そして、それを許容する世の中が本当の豊かな世の中だと思うのですけれども、こういうふうに行政がいろいろな活動を支援、もしくは主催しているということは本当にすばらしいことだし、もっともっと豊かになっていければいいなと率直に思いました。</p> <p>ウェブ・ミュージアムというのは僕はまだ拝見していませんけれども、これからぜひ見たいと思います。家で見られるということですね。こういう取組というのは杉並区以外の市区町村でもやられているのですか。</p> |
| 曾田会長 | あまり聞かないですね。 |
| 後藤副会長 | 私もあまり聞かないですね。 |
| 文化・交流課長 | あまり聞かないですね。 |
| シライ委員 | とてもすばらしいですね。コロナのこともあって、出かけていけない時間がありましたので、家で見られるというのは本当にすばらしいことですし、私は演劇が専門ですけれども、演劇に限らず、こういうふういろいろなものがすぐそこにあるという環境は、本当に杉並区はすばらしいなと改めて思いました。演劇も頑張ります。 |

| | |
|------|---|
| 曾田会長 | <p>ありがとうございました。感想ですけれども、杉並区の場合はハイアートだけではなくて、ポップアートも含めてワイドアートというか、いろいろなものがある、入り口がたくさんあるというところがすばらしいかなと思います。あるいは参加型アートをいろいろご用意されているということがありますので、気軽に体験してもらうことは考えていらっしゃると思います。それがうまく伝わればいいのですけれどもというところはあると思いますが。</p> <p>続きまして、染谷委員、お願いします。</p> |
| 染谷委員 | <p>私は、公会堂の実績というところでのお話になってしまうのですが、公会堂の来場者数が24万人と挙がってはいるのですが、コロナ禍で一番ひどいときも14万人です。コロナ禍前に戻りますと、35万人ぐらいというのが今までの来館者数の実績になります。</p> <p>それを踏まえますと、まだ10万人ぐらい来館者の方が戻ってきていないということもございますので、これからどれだけ、自分たちの公会堂としての貸し館業をどうやるかというのものもあるかもしれないのですが、一つ一つの貸し館をやる主催者の方たちがどういう形でお客さんの呼び戻しであったり、文化・芸術をいかに発信していくのかというところがこの文化・芸術の広がりにつながる課題になってくるのかなと感じております。</p> <p>実際に、去年の我々の事業の中で1つよかったなと思ったのが、日本フィルの杉並公会堂シリーズの中で、指揮者の方は小林研一郎さんだったので、桑原志織さんという地元のピアニストをソリストとして招いた事業がありました。それは完売という形ではあったのですが、1つ言えるのが、もともと荻窪音楽祭のフレッシュジュニアコンサートというコンサートで入賞された方なので、</p> |
| 染谷委員 | <p>その当時高校生で、今回、世界的にも有名なピアニストになって戻ってきてくれたということで、すごく区内の関心も高く、その公演自体も完売が早かったということがあります。そういう意味で、実際に杉並区で成長したお子さんが改めて杉並区に凱旋して演奏していただいて、それを刺激として、お子さんたちに私たちもこうなりたいという希望を与えられるような公演をこれからもやればなと思ったりしております。</p> <p>また、反面、今回のコロナ禍の中で解散してしまった団体、特に顕著なのが社交ダンスの団体であったり、また、ボイストレーニングの教室が廃業になってしまったりという関係で、スタジオの稼働率も落ち込んでいるということも見られています。</p> <p>実際、これから社交ダンスが区内で活発に行われていくのかというところは別の問題ですけれども、そういった縮小してしまった関連団体をいかに回復させていく支援ができるのかというのは1つ課題ではあるのかなと私も認識はしております。</p> |
| 曾田会長 | <p>数字に見えること以外のところで非常に重要なご指摘を頂きまして、あ</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>りがとうございました。</p> <p>次に、谷原さん、お願いします。</p> |
| 谷原委員 | <p>今お話ししていただきました、日フィルの方々が中学校の吹奏楽部の皆さんの指導をしてくださる「プロに学ぶ吹奏楽ワークショップ」を私が担当しているNPOもやっておりますけれども、おかげさまで今、夏から秋の募集をかけていますが、去年の倍ぐらいの参加者がいました。コロナが終わって、吹奏楽が一番影響を受けておりましたので、11月の荻窪音楽祭のステージを目指して、また、南相馬の吹奏楽部の皆さんとの公演をこれからスタートさせるというのも本当にありがたい共同事業だなと思っております。</p> <p>話がちょっと違うのですが、先日、テレビを見ておりますと、この夏、日本の祭りがほぼほぼ全国的に復活する中で、人出が多いであろうベストテンに我が町の高円寺が5位に入っております。それを支えているインバウンド需要が戻ってきていることが非常に大きいという分析がありました。外国人の方が本当に多くなってきているのですが、観光するよりも体験型を求めて日本にやってくる方たちが非常に多いというのがコロナ明けの特徴であるということでした。この杉並の中でも体験型のアートに関わるものがたくさんあるなと思っています。</p> <p>外国人の皆さんが口々に言うには、インスタであったり、SNSの中から日本の魅力を見つけ出して、一通りの観光地ではなくて、日本ならではの特色ある体験を求めてやってくる傾向があるということを受けて、1つお話を伺えたらと思うのが、この実行計画の中に外国人の皆さんにこの杉並の文化をどう発信していくのか、重点項目ではないにしても、そのような視点で、これから杉並の文化を外国人にどうPRしていくのか、発信していくのかという計画等があったら教えていただきたいなと思いました。</p> |
| 曾田会長 | <p>ありがとうございます。これはいかがでしょう。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>確かに外国人の居住者向けの支援というのはよく考えるのですが、例えば言葉の問題ですとか、生活相談ですとか、そういう話はあるんですが、文化を伝えるというのはそこまでいいですね。</p> |
| 谷原委員 | <p>杉並は、SNS、インスタ辺りで発信すると、高円寺の阿波おどりも皆さん、それを見て外国人の方々がカウントしていかれる、データが上に来ているというのがありますので、そういう発信の仕方もこれから考えてもいいかなと思いました。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>そうですね。確かにおっしゃるとおりだと思います。</p> |
| 曾田会長 | <p>高円寺は既にそういう取組はされているのではないですかね。</p> |
| 谷原委員 | <p>やっていますね。コロナ前も、TFFさんなどもこのミュージアムも多分ウェブで英語版で発信をしておられたり、やっていらっしやっただとは思いますが、その辺りはますますこれから力を入れていく必要がある分野かなと。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>ただ見てもらうだけではなくて、もう1つ何か引っかかるような工夫を</p> |

| | |
|------|---|
| | して……。 |
| 曾田会長 | 発見してもらおうということですね。 |
| 谷原委員 | 英語版だけではなくて、いろいろな言語の方々に発信していけるという ような。 |
| 曾田会長 | ありがとうございました。 それでは、次は服部委員、お願いします。 |
| 服部委員 | <p>スギナミ・ウェブ・ミュージアム、すっかりファンになりまして、最近も杉並の芸術家展、中川一政さんとか、佐野ぬいさん。それから、私、存じ上げなかったのですが、田中青坪さん、トリオで紹介されまして、佐野ぬいさんとか中川一政さんはよく知っているのですけれども、田中青坪さんという方は全然知りませんでしたし、まさか杉並で大変有名な方がいらっしゃるのを知りませんでしたけれども、こうやってトリオで紹介していただくと、何か非常に親しみがありましたね。</p> <p>それから、私、たまたま先月、高島屋のバラの包装紙を描いた高岡徳太郎さんという有名な方がいらっしゃいますが、その方の息子さんの嫁さんですから義理の娘さんに紹介されました。ちょうど杉並区役所の5階に高岡徳太郎さんの陶板画がありますね。それを見る機会がありまして、杉並にも立派な作家の立派な作品がたくさんあるのだなと。</p> <p>佐野ぬいさんの絵は有名ですけれども、皆さんが杉並区内の有名な作家の作品を撮っていらっしゃいますね。それをウェブ・ミュージアムに紹介するというのを聞きましたけれども、そういうことはぜひやっていただいて、区役所の中にも立派な作品がいっぱいあるのですね。びっくりしました。私、たまたま高岡徳太郎さんの息子さんの高岡徹先生と文化団体連合会で一緒に活動をしているものですから、非常に身近に感じました。その話をしたら、高岡徹先生はスギナミ・ウェブ・ミュージアムをご存じなかったのでお教えしました。</p> |
| 曾田会長 | <p>ありがとうございます。何かコメントを頂ける方、ありますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>では、最後に日沼委員、お願いします。</p> |
| 日沼委員 | <p>本当にすばらしい事業ばかりで、改めて熟読させていただきました。これまで（杉並区在住の）元学長である佐野先生をはじめとして女子美術大学もご協力させていただいて参りましたが、「UNDER 24」の審査員も本学の准教授の先生（メディア表現領域）が務めさせていただいて、ますますいろいろな協働ができるとも感じました。</p> <p>この数年、デジタル上でのアート鑑賞や体験が発展してきていますので、次々と新しいコンテンツが発展して本当にすばらしいなと思いますが、一方、やはり、リアルのフィジカルな体験というのは何物にも代えられないものなので、もっと（バーチャルとフィジカルが）並行して進んでいくのだろうなと思っていましたが、手書きの原画展を手がけられるなど、きちんとそのこともフォローされていました。どうしてもデジタルは、</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>展覧会として楽しめるものの、メタバースのような体験はできるのだけでも、情報としてのものでしか伝わってこないものが多く、五感を使って体験できるもの、心身にしみ込んでいく体験はリアルに優るものはないなと思います。これからますますそういったこと（デジタルアート分野）も並行して、リアルに体感できるアートの場所が増えていくことを期待したいと思っています。</p> |
| 曾田会長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>皆さんに一通り感想を述べていただきまして、これまで、あるいは現在実行中の事業についての意見交換をさせていただきました。</p> <p>何か細かいことでも構いませんけれども、要望なり注文なり、そういった部分はありませんでしょうか。</p> |
| 朝枝委員 | <p>要望というのはおこがましいのですけれども、2点、今皆さんのお話を伺っていて思ったのですけれども、1点目が、服部委員がおっしゃったように区内のいろいろなところに芸術家の作品が飾られていますけれども、リアルと先生がおっしゃられたように、美術館とか博物館はないのけれども、そこを回るようなことを展開して、例えば永福町の駅には忠良さんの像があるとか、実際に回れるようなものもあつたらいいかなと、今、服部さんの話を伺いながら思いました。</p> |
| 服部委員 | <p>たくさんありますよね。</p> |
| 朝枝委員 | <p>そうですね。もったいないなと思いました。</p> <p>それから、あともう1点、これもここで伺うべきかどうか分からないのですけれども、多文化共生プランというのは多分杉並はまだできていないですね。その辺のところは外国の方たちが文化を体験する。生活支援とか、言語支援とか、学習支援もそうですね、そういうものを盛り込んだものが何かできるというのを改めて思いました。以上です。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>今いろいろな芸術ですとか、美術作品が区内にもいろいろありますということで、もちろんこちらもそういうアート情報を地図の情報にして紹介するというのも考えておりまして、実際、ウェブ・ミュージアムの中でも「スギナミ・アートチズ」というのをやっております。さらに箇所数を増やしていければというところもあるのですけれども、そんな取組もしております。</p> |
| 曾田会長 | <p>いろいろご意見、ありがとうございました。</p> <p>そうすると、時間も割に過ぎておりますので、次の議題に移らせていただきたいと思っております。</p> |
| | <p>（2）令和5年度文化芸術活動助成金の審査について（資料2）</p> |
| 曾田会長 | <p>議題（2）「令和5年度文化芸術活動助成金の審査について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>続きまして、資料2を御覧ください。</p> <p>先ほどから何回か出ておりますけれども、文化芸術活動助成金という制度がございます。5年度につきましてですが、先ほども申しました73件</p> |

の応募がございました。そちらが資料2に載っております。

上から御覧ください。「直近3年以内に、区内で主体的に広く一般公衆に鑑賞させることを目的とした事業を2回以上実施した実績を有する区民または団体」が対象になっておりまして、助成金の額としては上限40万円、補助率3分の2の助成となっております。

実施期間は4月1日から翌年の3月31日ですから、5年度中ということで、募集期間は先ほど申しました5月31日で一度締め切っております。

審査方法としまして、今日の審議会の委員から5名による審査部会を設けまして、審査をしていただきます。書類審査をしまして、その下にある四角の中の視点をもって審査をしていただきます。7月28日（金曜日）に部会を開く予定ですので、部会員の方はぜひよろしくお願いいたします。

審査の視点としてはホームページやチラシで広く区民に周知することですとか、区民の鑑賞、参加の機会を提供するものであるかどうかということ、継続性が見込まれるかですとか、予算や計画に実現性があるかとか、地域への波及効果があるか、事業実施が妥当なものかというところを見ていただきます。以前はここに感染症対策についても1項目載せてございましたが、そこについては削除しております。

それと、下に「※」がございまして、上記の視点のほかに、加点の対象となる項目としまして、「国際的、全国的に認められている活動か」「杉並の地域で著名な活動か」「杉並の地域資源・文化資源を活かした活動か」「社会貢献的な要素があるか」「新規性のある活動か」という5項目を設けてございます。こういう視点でも見ていただくこととなります。

先ほど申しました7月28日に部会を開きまして、助成事業者の案を決めまして、また審議会の委員に報告をして承認を得るという流れでございます。

スケジュールは下に載っているとおりでございます。

もう1枚、参考資料を御覧いただきたいのですが、右上に「参考」となっているものです。

こちらについても部会でご議論いただくこととなります。「文化・芸術分野に係る計画について」ですが、区では総合計画・実行計画を定めておりまして、この中の1つとして文化・芸術の支援についても載っております。

現在、この計画の改定作業を行っておりまして、昨今の物価高騰ですとか、デジタル化の進展等、社会経済環境の変化に対応するため、本来でしたら令和6年度に予定していた計画改定を1年前倒しいたしまして、今年度の計画改定ということで今進めております。今年度の改定では、6年度、7年度、8年度の計画を策定する予定となっております。

つきましては、7月28日に開催いたします助成金の審査部会におい

| | |
|-------------|---|
| | <p>て、令和6年度から8年度までの助成金制度についてご審議いただきたいと考えておりました、その結果について審議会委員の皆様にご報告をいたしまして、実行計画の内容に盛り込んでいきたいと考えてございます。</p> <p>具体的に何をするかといいますと、このペーパーの一番下のところに「文化芸術活動助成25件」、4、5、6年度に25件ずつ助成しますよとなっているのですが、このやり方でいいのかどうかということをご議論いただきたいと考えております。今日はこのご案内だけなのですがけれども、部会のほうで相変わらずこれでいいのか、あるいは今40万円を上限としているもので助成をしているのだけれども、そうではなくて、例えば100万円のものを幾つか設けてとか、あるいは20万円ずつでもっと大勢に助成しようとか、いろいろ案があると思うのです。あとは、よく言うところのスタートアップで、若手に助成をしてみようとか、いろいろ思いがあるかと思いますが、そのようなことを皆様からご意見を頂きたいなどと考えております。これはまた次回ということになります。</p> <p>ご報告は以上でございます。</p> |
| <p>曾田会長</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>文化芸術活動助成金というものこの審議会の重要な案件でございまして、毎年、審査は審査部会で行って、この審議会にその報告があるということですがけれども、ここ数年はコロナ対応ということで特別に件数を増やすということをされていて、昨年も予算を補正で1,000万円積んでいただいて、25件プラス25件で50件とされて、全体では2,000万円の助成金だったのですが、これを元に戻しまして、今年度からは1,000万円ということなので、件数が25件になるということですね。上限40万は変わらないで今年度は行うということですが、今、坪川課長からお話がありましたように、今後どこに重点を置くのか、どういうところで独自性を出していくのかということについて、長期的な展望の下に、杉並区としては何を指すのかということを議論させていただく機会が次回あるだろうということですね。そのようにご了解いただいて、取りあえず今年度については40万円上限で、補助率3分の2で、25件程度ということで進んでおり、申請が73件あって、現在審査中ということですね。ということで、何かこの事業に関してご意見とか、ご質問とか、ございませうでしょうか。</p> <p>ちょっと特徴的なのはジャンルごとの応募状況で、音楽が多いのはほかとそんなに変わらないと思うのですがけれども、演劇、伝統芸能が多いというのは杉並の特徴ではないかと思えます。美術も件数としてはそんなに多くないという感じではないかと思えますけれども、演劇、伝統芸能が多いところが特色としてあるかなという気はいたします。</p> <p>この件についてはよろしいですか。</p> |
| <p>曾田会長</p> | <p>(3) 杉並芸術会館芸術監督の選任について (資料3)</p> <p>では、次に、議題(3)に移らせていただきたいと思えます。</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>議題の(3)「杉並芸術会館芸術監督の選任について」ということで、事務局からの説明をお願いいたします。</p> |
| 文化・交流課長 | <p>続いては、資料3を御覧ください。資料3『杉並芸術会館芸術監督』の選任についてでございます。</p> <p>先ほども申しましたが、6月30日をもちまして前任の佐藤信監督が任期満了となり、新たな芸術監督を公募いたしましたところ、74名の方から応募がございました。区で選考委員会を設けまして、選考した結果、新芸術監督として今日お越しいただいておりますシライケイタさんをお迎えしてございます。</p> <p>真ん中辺りに選考経過がございますが、第一次選考としましては書類審査を行いました。74名の方の中から4名を書類審査で選びまして、第二次選考でその4名の方に区役所にお越しいただいて、プレゼンテーション、ヒアリングを実施いたしまして、最終的に最上位の点数を得たシライケイタさんを監督として決定したという内容でございます。</p> <p>一番下に任期がございますが、今年の7月1日から令和10年6月30日の5年間でございます。</p> <p>私からは以上でございます。</p> |
| 曾田会長 | <p>ご着任おめでとうでございます。</p> |
| シライ委員 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 曾田会長 | <p>着任されて5年間務められるに当たって、お考えをごく簡単にということでお話しいただければと思います。</p> |
| シライ委員 | <p>改めまして、シライケイタです。これからよろしくお願いたします。</p> <p>先ほどもちょっとお話しさせていただきましたけれども、まだまだ日本の、とりわけ舞台芸術分野というのは本当に発展途上と言っていいと思います。現代演劇、つまり、歌舞伎以外の演劇がと言っていいでしょう。新派というのがありましたけれども、歌舞伎といった古典芸能から現代演劇に切り替わって、日本では現代劇が入ってきてまだ100年ぐらいです。</p> <p>そこから本当に民間の劇団がやみくもに、何とか西洋演劇をまねして作った時代が50年から60年続いて、そこから先代の芸術監督である佐藤信さんたちの起こしたアンダーグラウンド演劇という日本独自の演劇運動が起こって、極めて個人的な活動だった演劇が、ここ20年から30年の間に、ようやくここで初めて公共劇場の芸術監督というものが、これもやはり海外を参考にして輸入されてきました。ですので、その芸術監督の第1世代の皆さんが最近引退されて、第2世代、そして第3世代に今移ってきたと。そういう意味では、劇場における芸術監督の役割というのもまだまだ探している状態だと思います。</p> <p>私自身も俳優出身でして、その後、35歳になって初めて脚本を書き、劇作家になりました。36歳になって初めて舞台の演出をしまして、極めて個人的に作品を作り続けてきたと言っていいと思います。</p> <p>それが、とりわけコロナ禍において個人的な活動が制限され、そのとき</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>に初めて演劇界の仲間と一緒に省庁に窮状を訴えに行ったり、助成をお願いしたり、補正予算の成立をお願いしたり、署名を集めたりという活動をしていく中で、この国の文化・芸術、とりわけ舞台芸術分野の土壌が耕されていない、まだまだ発展途上であるという思いを強くいたしました。個人の活動を保障するという意味でも、公共がやるべき仕事は多いのではないかという思いが、今回、この芸術監督の公募に応募させていただいた一番の理由です。</p> <p>土壌を耕すためには、作り手の意識改革、プロモーション、そして観客の育成、行政の理解と支援という、一遍にいろいろなことを改革していく必要があって、なかなか個人ではそこまで手が伸びない。それが、公共のネットワークを使ってなら効果的にそういう仕事ができるのではないかと思います</p> <p>ですので、もちろん個人の活動は続けていきますけれども、それとともに日本の文化・芸術、とりわけ舞台芸術分野の裾野を広げていくということを主眼に置いて、地域の杉並区の演劇の土壌を耕していく。それが日本全国に、そして世界に向けての波及効果につながっていくということを信じて活動していきたいと思っております。座・高円寺から日本の誇れる舞台作品、世界に飛び出していけるような舞台作品が作れたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。(拍手)</p> |
| 曾田会長 | <p>皆様からコメントがあればさせていただきたいのですが、私から少し申し上げますと、74名の応募の中から選ばれて就任されたということ自体がすごく意味のあることだと思います。それから、座・高円寺という劇場があって、劇作家協会が協力されていて、非常に多くの新作を作られているという活動がふだんあるから、そういう現象が起きたのではないかということと、公共劇場の芸術監督、杉並区の芸術監督、職員でいらっしゃるというお立場も、日本の中ですごく重要な意味合いを持っているのではないかと思いますので、ぜひ今後の活躍を期待しております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>皆様、何か一言ずつお願いします。</p> |
| 後藤副会長 | <p>昔だと、私は北海道の田舎だったのですが、そこでも演劇部があって、盛んにやっていましたが、今の子どもたちはどうなのですか。</p> |
| シライ委員 | <p>高校生ですか。</p> |
| 後藤副会長 | <p>高校生だったり、中学生だったりとか。</p> |
| シライ委員 | <p>私は、今月末に鹿児島で行われる全国大会に審査員として行きます。全国大会の審査員をやるのは今年初めてですけれども、東北のブロック大会ですとか、福島県大会ですとかいうところには過去にも審査員として参加したことがありますけれども、非常に活発に行われていると思います。まるで運動部のように、体育会系の部活のように高校の演劇部があるのですよね。</p> |
| 後藤副会長 | <p>そうですね。朝の声出しから。</p> |

| | |
|-------|--|
| シライ委員 | <p>そうです。運動部顔負けで筋トレをやったりとか。僕は大学に入ってから演劇を始めましたので、そういう演劇を知らなかったのが非常にびっくりしました。本当に活発ですね。そして、レベルは高いです。高校の演劇の顧問の先生の中にプロとして活動されている劇作家の方がいらっしゃる、ものすごく優れた作品を作る高校が本当に多いです。</p> |
| 曾田会長 | <p>ほかの委員の方、特に演劇のご専門でなくても、何か一言あれば。</p> |
| 日沼委員 | <p>先ほどもご挨拶の際に申し上げましたけれども、私が直接指導しているアートプロデュース表現領域は、美術だけではなくて、音楽、演劇の授業もあります。今、青年団に所属する先生方にご指導いただき、演劇経験のない学生も全員キャスティングしてお芝居をする、また、舞台美術の授業も取り入れたりしており、日常からそういうことに取り組んでいるのです。そういう意味では、美大ですけれども、パフォーマンスアーツを将来目指したい学生がとても多いクラスなのです。ですけれども、「どんな演劇が好きなの？」という、やっぱり「2. 5次元」という返事が返ってくる感じで、まだ高校生の頃までの興味や知識の域を出ていないところがあります。そういう意味でも、大学から歩いていける場所に座・高円寺があることから、数年間は行けなかったのですけれども、今年、本当に久しぶりに（授業として）見学させていただきました。広報担当の方がいつも案内してくださるのですけれども、これだけ自分たちの大学の近くに、しかも杉並区という、どちらかというと商業施設ではなくて、住民の人たちが中心のエリアでこんなに豊かな劇場があるということに学生たちが本当に驚いていました。</p> <p>以前も見学を経験した学生たちが、アルバイトをさせていただいたりしたことがあり、今回も早速（アルバイトをやりたいと）手を挙げた学生がお世話になっています。自分たちが憧れている世界のリアルな姿に触れることができ、地域の人たちとの積み重ねから、実は（劇場というものが）世界につながっているのだよということを実際に知ってもらえるいい機会でした。これからもまた続けて、ぜひ訪問させていただきたいですし、彼女たちが将来そういった仕事に従事できるようなことをまたいろいろご指導いただければありがたいなと思いますので、よろしく願いいたします。</p> |
| 谷原委員 | <p>私、NPOのほうで、教育委員会もそうですけれども、部活動の地域移行の課題解決のために、今年、この吹奏楽の協働事業を担当させていただいているのです。吹奏楽もそうですが、実はマインドまで教えられる教員があまりいないということで、ぜひ同じように4月に、吹奏楽のほうは初心者研修が区内で行われているのですが、区内中学生で「よし、演劇をやってみようかな」と思っている中学生にもし機会がありましたら、「演劇というものはこんなにすばらしいのだよ」という演劇のよさを伝えるワークショップを、演劇を志す中学生などに新しく企画していただけるといいかなという気がいたしました。よろしく願いいたします。</p> |

| | |
|---------|---|
| シライ委員 | 分かりました。よろしく願いいたします。 |
| 曾田会長 | あと、ご自由に発言いただきたいのですが、参考資料で「文化・芸術分野に係る計画について」の説明が先ほどあって、総合計画・実行計画が載っています。実行計画のほうはこの審議会で話が毎年出ているようなものなのであまり違和感はないのですが、総合計画のところは施策の指標が鑑賞した区民の割合みたいなことに今とどまっている感じがするのですね。 鑑賞からもうちょっと体験とか、そっちの方向にシフトしていくほうが、あるいはハイアートだけではなくて、ワイドアートに変わっていく必要があるというか、そうなったほうがいいかなと思っておりますので、長期的にはそういう方向に行くように計画の指標が変わっていくといいかなと思ってるところです。 |
| 後藤副会長 | 前もお聞きしたかもしれないですけども、これはオンライン配信も含むのですか。 |
| 文化・交流課長 | そうですね。 |
| 後藤副会長 | オンライン配信と実際というのはどのぐらいの割合か分かりますか。 |
| 文化・交流課長 | ちょっとそこまでは取れていないです。 |
| 後藤副会長 | そうですね。分かりました。 このオンライン配信というのも、コロナ禍が始まったときはすごくいいなと思っていたのですけれども、クラシックの場合、配信で聞けるのだったら演奏会場へ行かなくてもいつでも聞けるしという流れにだんだんなっているところがあるので、オンライン配信もいろいろ考えものだなということもあたりしたものですから、いい面と悪い面があるのですね。だから、ちょっとその割合がどうかなと思ってお聞きしたのです。 |
| 曾田会長 | それでは、3番の議題としては「杉並芸術会館芸術監督の選任について」ということで、シライさんのご就任に当たっての抱負を伺って、こちらからは期待を述べさせていただいたということです。今後ともよろしくどうぞお願いいたします。 |
| | (4) 令和5年度 審議会スケジュールについて (資料4) |
| 曾田会長 | 最後の議題ですが、「令和5年度文化・芸術振興審議会スケジュール」ということで、ご説明をお願いします。 |
| 文化・交流課長 | 最後ですが、資料4を御覧ください。「令和5年度文化・芸術振興審議会スケジュール」でございます。 現時点で予定をしております主な議題としましては、次回は今のところ5年の11月を予定しておりますが、先ほども申しましたけれども、5年度の文化芸術活動助成金の審査結果についてと、総合計画・実行計画の改定についてを議題として予定しております。 最後の第3回については来年の3月となりますが、今度は6年度のこととなります。文化・芸術振興事業の実施予定と、やはり助成金の審査につ |

| | |
|------|---|
| | <p>いてを議題と予定してございます。 こちらは以上でございます。</p> |
| 曾田会長 | <p>何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。 なければ、以上で当初予定の議題を終了いたしましたので、審議会を終了させていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。</p> |
| | <p>4 閉会</p> |
| 曾田会長 | <p>では、以上で終了いたします。どうもありがとうございました。</p> |
| | <p>－ 閉会 － (午後7時27分)</p> |

令和5年度 第1回 杉並区文化・芸術振興審議会 次第

令和5年7月13日(木)
午後6時から
区役所東棟教育委員会室

- 1 開会
- 2 審議会委員の紹介
- 3 議題
 - (1) 令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定について
 - (2) 令和5年度文化芸術活動助成金の審査について
 - (3) 杉並芸術会館芸術監督の選任について
 - (4) 令和5年度 審議会スケジュールについて
- 4 閉会

【配布資料】

- 資料 1 : 令和4年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和5年度の実施予定について
- 資料 2 : 令和5年度文化芸術活動助成金の審査について
- 資料 3 : 杉並芸術会館芸術監督の選任について
- 資料 4 : 令和5年度 文化・芸術振興審議会スケジュール
- 参考資料 : 杉並区文化・芸術分野に関する計画について

令和 4 年度文化・芸術振興事業の取組結果と令和 5 年度の実施予定について

文化・芸術活動の創造と発信

○杉並芸術会館（座・高円寺）及び杉並公会堂での文化芸術の提供

| | 来場者数 (前年度) | 事業数（主催・共催等） 実績(前年度) | 稼働率(前年度) |
|-------|--------------------------|--|---|
| 座・高円寺 | 177,212 人 (132,961 人) | 446 事業 (307 事業) 「アメリカン・ラブソディ」・ 「ジョルジュ」、劇場へ行こう など | 座・高円寺 2 : 80% (72%) 阿波おどりホール : 71% (64%) |
| 杉並公会堂 | 240,244 人 (141,219 人) | 33 事業 (27 事業) 日本フィル杉並公会堂シリーズ 特撰落語会 など | 大ホール : 78% (67%) 小ホール : 89% (72%) グランサロン : 72% (63%) |

○日本フィルハーモニー交響楽団友好提携事業の実施

| 事業名 | 回 | 実施場所 | 参加人数 |
|----------------------|----|------------------------------------|---------|
| 日本フィル杉並公会堂 シリーズ | 4 | 杉並公会堂大ホール | 2,711 人 |
| 公開リハーサル | 4 | 杉並公会堂大ホール | 1,488 人 |
| 出張音楽教室 | 10 | 区立小学校 (5 回)・区立中学校 (5 回) | 1,786 人 |
| 区施設出張コンサート | 12 | ゆうゆう館、区立保育園等 | 792 人 |
| 公募出張コンサート | 3 | デイサービス、グループホーム等 | 137 人 |
| 区役所 ロビーコンサート | 4 | 区役所ロビー (3 回) コミュニティふらっと永福 (1 回) | 1,102 人 |
| エデュケーション・ フェスティバル | 1 | 杉並公会堂大ホール | 1,228 人 |



出張ロビーコンサート (コミュニティふらっと永福)



出張コンサート (グループホーム)

○情報紙「コミュかる」の発行 (年 4 回)

1 面は、主に区制施行 90 周年記念事業に関する方を特集しました。

| 月 | 1 面インタビュー |
|----|---|
| 6 | 脚本・演出家 池亀 三太 さん (高円寺阿波おどり演劇「高円寺が踊る」) |
| 9 | 浪曲師 玉川 太福 さん (内田秀五郎のしごと「内田秀五郎一代記」) |
| 12 | 作曲家 福島 弘和 さん (区制施行 90 周年記念曲「交響詩<<鼓吹の桜>>」) |
| 3 | 移動美術館 八重田 季江さん・佐々木 環美さん (文化芸術活動助成金承認団体) |

○ すぎなみ戦略的アートプロジェクト

| 内容 | 場所 | 参加者数 |
|---|---------------------|---|
| スギナミ・ウェブ・ミュージアム | | |
| <p>①【企画展】マイなみすけ展 期間：令和4年5月1日～令和5年1月31日 区公式アニメキャラクター「なみすけ」を題材とした展示。 区民からの応募作品268点を、なみすけの形のピクセルモザイク画として製作展示した。また、プロのイラストレーターの作品も展示。</p> <p>②【企画展】阿佐ヶ谷住宅の記憶展 期間：令和4年7月1日～令和5年6月30日 区民に長く親しまれていた阿佐ヶ谷住宅を題材とした展示。 貴重な元居住者の思い出や、廃材を用いたアート作品、区内に保管されていたテラスハウスの建具や部材、3Dで再現された建物動画等、様々な種類の展示を実施中。 その他「杉並の写真家10人展」、「真造圭伍「ひらやすみ」原画展」</p> | | <p>① 6,744 ② 49,959 (アクセス数)</p> |
| 文化芸術の展示 (BATA ART EXHIBITION) | | |
| <p>①スギナミ・ウェブ・ミュージアム「企画展」のリアル展示 期間：令和4年8月2日～8月6日 スギナミ・ウェブ・ミュージアムの企画展「マイなみすけ展」「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」のウェブ展示データを実際のパネルやポスターにして展示。廃材を用いたアート作品、テラスハウスの建具や部材等の実物も展示した。</p> <p>②バタアートエキシビション 和文化ワークショップ 上記企画展と併せて、「ミニ枯山水づくり」や、「風鈴絵付け」、「扇子絵付け」など7種類のワークショップを実施。</p> | 区民 ギャラリー | <p>① 約450名 ② 約50名</p> |
| <p>① バタアートエキシビション 2022 スタードーム 日時：令和4年10月21日 17時～20時 阿佐谷ジャズストリートの会場の一つである阿佐谷地域区民センターのけやき公園にてスタードームを点灯して展示。</p> <p>②バタアートエキシビション 和文化ワークショップ 日時：令和4年10月21日 全3回 上記展示に併せて、「竹のカスタネットづくり」と「マスクで仮装しよう」の2種類のワークショップを実施。</p> | 阿佐谷 地域区民 センター | <p>① 約200名 ② 6名</p> |
| アート・ファン・ミーティング | | |
| <p>杉並の文化・芸術に関心のある人が自由に参加し情報交換を行う会議を全8回実施。 ※文化・芸術に関する講座や勉強会、ワークショップも実施</p> | ・区役所等 | 計56名 |



スギナミ・ウェブ・ミュージアム「マイなみすけ展」



バタアートエキシビション 2022 スタードーム

○ 古典の日関連事業

令和4年12月4日（日）に座・高円寺で、古典の日関連イベントを実施しました。

| 内容 | 場所 | 参加者数 (計 466 名) | アンケート結果 (区内 95%、区外 5%) |
|--|----------|--|--|
| 見てみよう！（鑑賞） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・浪曲 [全 2 回] 浪曲師・玉川太福氏、曲師・玉川みね子氏が子どもでも楽しめる浪曲「豆腐屋ジョニー」と区制施行 90 周年を記念した「内田秀五郎一代記」を口演。参加者数名が舞台上で浪曲体験を行った。 | 座・高円寺 2 | <ul style="list-style-type: none"> ① 149 名 ② 147 名 定員 210 名 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い・良い 97% ・普通 2% ・あまり良くない・良くない 1% ※回答者数 245 名 |
| やってみよう！（体験） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・殺陣(たて)体験 [全 2 回] 伝統文化である歌舞伎や時代劇の立回りの体験。 | 阿波おどりホール | <ul style="list-style-type: none"> ① 25 名 ② 25 名 定員 25 名 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い・良い 94% ・普通 4% ・あまり良くない・良くない 2% ※回答者数 55 名 (参加者の一部保護者を含む) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・三線体験[全 2 回] 沖縄で古くから伝わる楽器「三線」の体験。 | | <ul style="list-style-type: none"> ① 25 名 ② 25 名 定員 25 名 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い・良い 98% ・普通 0% ・あまり良くない・良くない 2% ※回答者数 46 名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・昔あそび[1 回] お手玉や折り紙などの日本の昔あそびの体験。 | | <ul style="list-style-type: none"> 約 70 名 定員なし | <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い・良い 85% ・普通 4% ・あまり良くない・良くない 11% ※回答者数 26 名 |



浪曲口演



殺陣体験

(2) 文化・芸術活動の支援

○文化芸術活動助成

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、文化・芸術関係者が活動を継続し、区民が安心して芸術を鑑賞できるよう、感染症対策を講じて実施する文化・芸術活動事業 50 件に対し、その事業に係る経費の一部を助成しました。

(3) その他

○ 区民ギャラリーの運営

区役所中棟2階にピクチャーレールやスポットライトを整備し、区民が利用できる作品展示スペースとして運営しています。

令和4年度は、区民利用17件、行政利用32件の展示がありました。また、文化・交流課では令和5年1月23日～2月4日の間、以下の企画展を行いました。

【企画展内容】

○ 企画展名：真造圭伍「ひらやすみ」原画展 - 四季と日常 -

○ 真造圭伍のプロフィール

1987年石川県生まれ。2008年に漫画家デビュー。高円寺に6年間住み、杉並を舞台とした漫画「ひらやすみ」を年に初版して以来、現在までに4巻発刊している。本作は「マンガ大賞2022」第3位に輝くなど、多くのメディアでも話題を集めている。

○ 主催：杉並区（協力：小学館）

| 内容 | 場所 | 来場者数 | アンケート結果 (1,983名) (区内53%、区外47%) |
|---|------------------|------------------|---|
| 原画展示 | | | |
| デジタル主流の中、作者が手書きで描いた原画55点（カラー原稿26点、モノクロ原稿29点）を額装展示するとともに、作者の手書きイラスト冊子や作中の印象的なシーンをパネルにして展示した。漫画「ひらやすみ」初となる原画展で、アンケートに協力いただいた方に、街歩きマップ（2,000部）を贈呈した。 | 区役所2階 区民ギャラリー | 3,311名 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い・良い 99.5% ・普通 0.4% ・あまり良くない・良くない 0.1% |
| ウェブ展示 | | | |
| スギナミ・ウェブ・ミュージアムでも同原画55点の電子データをウェブ上で親しめるように展示し、杉並ゆかりの文化芸術作品を国内外に発信。 | スギナミ・ウェブ・ミュージアム | 2,744 (アクセス数) | — |



縁側フォトスポット



原画展示

2 令和5年度の主な文化・芸術振興事業（概要）

（1）文化・芸術活動の創造と発信

○杉並芸術会館及び杉並公会堂での文化芸術の提供

・杉並芸術会館（指定管理事業）

公演 32 プログラム他、ワークショップ等を実施します（前年度公演 30 プログラム他ワークショップ等を実施）。具体的には、区立小学校4年生を招待して行う公演や、未就学児を主な対象とした公演等、様々なジャンルの舞台芸術やワークショップ等を実施します。

・杉並公会堂（PFI 事業）（令和6年1月～8月まで大規模修繕のため休館）

杉並公会堂の自主及び共催事業として 25 公演を実施します（前年度 33 公演）。

抜群の音響性能を誇る大ホールをはじめ、小ホール、スタジオなどの各施設を安定的に稼働させ、区民等の練習・発表の場として広く安心して利用できる施設運営を支援します。また、日本フィルハーモニー交響楽団の活動拠点として、区民に良質な音楽を身近に提供します。

○日本フィルハーモニー交響楽団友好提携事業の実施

- ・区立小中学校への出張音楽教室…10校（前年度同数）
- ・区立施設及び民間施設の高齢者施設等への出張コンサート…15回（前年度同数）
- ・区役所ロビーコンサート…4回（前年度同数）
※出張版として、「久我山会館」と「コミュニティふらっと成田」で各1回実施予定
- ・公開リハーサル…2回（前年度4回）※
- ・日本フィル杉並公会堂シリーズ…4回（前年度同数）
※杉並公会堂大規模修繕による休館により実施予定数減

○「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」の運営・発信

様々な世代の区民等がオンラインを通じて文化芸術に触れる機会を提供します。

【常設展】

- ・阿佐ヶ谷住宅の記憶展
- ・トウキョウ・スギナミ・アートチズ
区内の身近なアート情報を地図コンテンツ上で紹介する展示。
- ・杉並の芸術家展（令和5年7月～）
杉並にゆかりのある芸術家、画家・中川一政氏、画家・佐野ぬい氏、日本画家・田中青坪氏の作品を展示予定。

【企画展】

- ・「UNDER 24 CREATOR EXHIBITION」（令和5年10月～令和6年9月まで）
将来クリエイターを目指す小学校5年生から24歳までの公募作品を展示
- ・真造圭伍「ひらやすみ」原画展-四季と日常-（令和5年2月～令和6年1月まで）

【区民展】

- ・瀬谷ゆみこの9:16 in 2.5km radius（令和5年6月～11月15日まで）
スマートフォンと虫眼鏡で撮影した身近な植物の画像を展示。

○情報紙「コミュかる」の発行

区内の文化・芸術活動に関する情報を収集したタブロイド型情報紙を、年4回（6月・9月・12月・3月）各約13万部発行し、新聞折り込みや、区内駅等へ配架します。

| 月 | 1面インタビュー（予定） |
|----|-----------------------------------|
| 6 | 俳優 中島 多朗 さん（高円寺阿波おどり演劇「高円寺が踊る」出演） |
| 9 | 指揮者 カーチュン・ウォン さん（日本フィル 次期首席指揮者） |
| 12 | 演出家 シライケイタ さん（杉並芸術会館 芸術監督） |
| 3 | 文化芸術活動助成金承認団体 |

（2）文化・芸術活動の支援 **実行計画重点**

○文化・芸術振興審議会の運営

文化・芸術の振興に関して必要な事項を調査審議するため、区長の附属機関として設置し、文化・芸術の振興に関する必要な事項を年3回審議します。

○文化芸術活動助成

区内で行われる文化芸術活動事業に係る経費の一部を助成することを通して、区民や区内に拠点を持つ団体が、区内で行う多様で創造的な文化・芸術活動を支援するとともに、区民の文化芸術活動への参加や地域での鑑賞機会の充実を図っています。

令和5年度は4月1日から5月31日まで募集を行い、73件の申請がありました。

（3）その他の事業

○すぎなみ戦略的アートプロジェクト

NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャーと協力して以下の事業を実施します。

・アート・ファン・ミーティング

区内の文化・芸術に係る関係者やアーティスト、アートに関心のある学生などが集まり、情報交換をする目的で、年10回程、区役所等で開催します。

・和文化の発信（BATA ART EXHIBITION）

和菓子職人体験や、こけ玉づくりなどのワークショップを7月28日～30日に実施します。

・まちなかギャラリーの発掘

区内の民間ギャラリー店舗の他、お店や企業のオフィスの一角を、区民等の文化芸術作品を展示するスペースを貸し出す「まちなかギャラリー」として登録してもらい、スギナミ・ウェブ・ミュージアムで紹介していきます。現在の登録ギャラリー数は18件です。

○「古典の日」関連事業

11月1日が「古典の日」とする法律が平成24年に制定されたことを踏まえ、平成25年から小中学生を対象に古典に親しむ事業を実施しています。今年度は、12月3日に落語公演や、ふろしきワークショップ、けん玉級位認定会を行います。

○区民ギャラリーの運営

区役所中棟2階にピクチャーレールやスポットライトを整備し、区民が利用できる作品展示スペースとして運営します。

A区分：計16.19m（東側壁面）

B区分：計27.05m（西側壁面）



令和 5 年度文化芸術活動助成金の審査について

標記の件について、文化・芸術振興審議会において、以下のとおり審査を行い、その結果を踏まえ、区として助成を実施することとします。

1 募集内容及び応募状況

(1) 募集内容

| 区分 | 内容 |
|------------|--|
| 対象者 | 直近3年以内（令和2年4月～令和5年3月）に、区内で主体的に広く一般公衆に鑑賞させることを目的とした事業を2回以上実施した実績を有する区民または団体 |
| 助成金額及び予定件数 | 1事業当たり上限40万円（補助率2/3）、25件程度 |
| 事業実施対象期間 | 令和5年4月1日～令和6年3月31日 |
| 募集期間 | 令和5年4月1日～令和5年5月31日 |

(2) 応募状況

| | |
|------------|---|
| 応募件数と分野別内訳 | 73件 (音楽26件 美術7件 演劇13件 伝統芸能8件 舞踊3件 映像3件 その他13件) |
|------------|---|

2 審査方法等

- 審議会委員5名による助成金審査部会において、応募事業者から提出された申請書類を基に書類審査を行う。
- 書類審査は、助成金審査部会で確認・決定した審査表により次の視点を中心に行い、各助成金審査部会委員の評価点数を集計の上、助成事業者（案）を決定する。

- ホームページやチラシ等を活用して広く区民等に周知し、区民等の鑑賞または参加の機会等を提供するものであるか
- 区民等に対する文化・芸術活動としての継続性が見込まれるか
- 事業計画、収支予算に具体性があり、事業の実現性があるか
- 区民の関わり、地域への波及効果があるか
- 申請経費の金額や内容は事業実施のために妥当なものか
- ※上記のほか、加点の対象となる項目として「国際的、全国的に認められている活動か」「杉並の地域で著名な活動か」「杉並の地域資源・文化資源を活かした活動か」「社会貢献的な要素があるか」「新規性のある活動か」の項目を設け審査する。

- 助成金審査部会による助成事業者（案）を、審議会委員に報告し確認を得る。

3 主なスケジュール（予定）

| | |
|------------------|----------------------------|
| 令和5年7月28日（金） | 助成金審査部会で書類審査を実施 |
| 7月31日（月）～8月4日（金） | 書類審査結果を審議会委員へ報告・確認 |
| 8月上旬 | 区として助成事業者を決定し応募事業者へ審査結果を通知 |

「杉並芸術会館芸術監督」の選任について

杉並芸術会館芸術監督（以下「芸術監督」という。）が令和5年6月30日をもって任期満了となることに伴い、次期芸術監督を公募したところ、74名から応募がありました。これらの応募者について、杉並区立杉並芸術会館芸術監督選考委員会設置要綱に基づき設置した杉並芸術会館芸術監督選考委員会（以下「選考委員会」という。）において選考した結果、以下のとおり、新たな芸術監督を決定しました。

1 芸術監督

氏 名：シライケイタ（活動名）

年 齢：49歳

肩 書：演出家、脚本家、俳優

プロフィール：劇団温泉ドラゴン代表、日本演出者協会副理事長、日韓演劇交流センター会長
蜷川幸雄演出「ロミオとジュリエット」のパリス役で俳優デビュー。

2010年劇団温泉ドラゴン旗揚げ公演にシライケイタとして初戯曲となる「escape」を脚本提供。以降、同劇団内外で数々の脚本・演出を手掛ける。

2 選考経過等

選考委員会で定めた選考基準に基づき、第一次選考（書類審査）及び第二次選考（第一次選考を通過した4名を対象としたプレゼンテーション及びヒアリング）を実施した結果、最上位の点数を得た者を芸術監督候補者として決定した。（選考結果は別紙のとおり）

（選考経過） 令和5年4月1日 選考委員会設置

4月10日～5月10日 公募期間

5月11日～5月29日 第一次選考

6月7日 第二次選考、芸術監督候補者の決定

6月9日 芸術監督の決定

（選考委員会の構成）※選考委員の職名等は選考時点のものです。

| 職名等 | 氏名 | 職名等 | 氏名 |
|--------------|--------|------------------|-------|
| 早稲田大学 教授 | 岡室 美奈子 | ニッセイ基礎研究所 研究理事 | 吉本 光宏 |
| 明治学院大学 教授 | 小林 由利子 | 区民生活部文化・スポーツ担当部長 | 齊藤 俊朗 |
| 杉並区町会連合会 副会長 | 宮崎 静子 | 総務部人事課長 | 林田 信人 |

3 任期

令和5年7月1日～令和10年6月30日

令和5年度 文化・芸術振興審議会スケジュールについて（案）

現時点で、以下のとおり予定しています。

| 日程 | 主な議題 |
|----------------|---|
| 第2回 令和5年11月 | (1) 令和5年度文化芸術活動助成金の審査結果について (2) 杉並区総合計画・実行計画「文化・芸術の支援」の改訂について (3) その他 |
| 第3回 令和6年3月 | (1) 令和6年度文化・芸術振興事業の実施予定について (2) 令和6年度文化・芸術活動助成金審査について (3) その他 |

文化・芸術分野に係る計画について

1 計画体系

(1) 杉並区基本構想（令和3年10月に策定した区の最上位計画）

○令和4年度からの概ね10年程度を展望した基本構想では、文化・スポーツ分野の将来像等を次のとおり定めています。

| | |
|--------|---|
| 将来像 | 文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち |
| 取組の方向性 | 多様な文化・芸術の振興と多文化交流を推進する |
| 重点的な取組 | 子どもから大人まで質の高い多様な文化・芸術活動に触れることができるよう、ICTの活用などによる効果的な情報発信を推進しつつ、多様な文化・芸術活動の振興を図ります。 |

(2) 杉並区総合計画・実行計画（令和4年1月に策定）

○基本構想実現のための具体的な道筋として策定した総合計画（令和4年～12年度）・実行計画令和4年から6年度は、次のとおり文化・芸術振興の施策、事業を明記しています。

| | | | | | | |
|------|-------------------------|--|--|--|--------------|---------------|
| 総合計画 | 施策27 | 多様な文化・芸術の振興と多文化交流の推進 | | | | |
| | 計画最終年度の目標 | 誰もが気軽に文化・芸術に親しめる環境が整い、多様な文化が育まれています。 | | | | |
| | 施策指標 | 指標名 | 現状値 | 目標値 | | |
| | | 過去1年間に1回以上、文化・芸術鑑賞をした区民の割合（オンライン配信含む） | 67.6% (2年度) | 6年度 72.0% | 9年度 75.0% | 12年度 80.0% |
| 実行計画 | 文化・芸術活動の創造と発信 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | | |
| | | ○杉並芸術会館及び杉並公会堂での文化芸術の提供 公演回数各30回 ○日本フィル友好提携事業の実施 ○「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」の運営・発信 ○情報紙「コミュかる」の発行 年4回 | ○杉並芸術会館及び杉並公会堂での文化芸術の提供 公演回数各30回 ○日本フィル友好提携事業の実施 ○「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」の運営・発信 ○情報紙「コミュかる」の発行 年4回 | ○杉並芸術会館及び杉並公会堂での文化芸術の提供 公演回数各30回 ○日本フィル友好提携事業の実施 ○「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」の運営・発信 ○情報紙「コミュかる」の発行 年4回 | | |
| | 文化・芸術活動の支援 重点 | ○文化・芸術振興審議会運営 ○文化芸術活動助成 25件 | ○文化・芸術振興審議会運営 ○文化芸術活動助成 25件 | ○文化・芸術振興審議会運営 ○文化芸術活動助成 25件 | | |